

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
☐	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」生活していただくことを掲げて支援している。		
☐	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示することで、日常的な理念の共有と実現を目指している。		
☐	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様には、グループホーム入居契約時に理念について説明させていただいている。地域への取組としては、事業所主催の地域の方との勉強会等で、事業所の考えをお伝えさせていただいている。		
2. 地域との支えあい				
☐	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出時に挨拶をしている。ご近所方も気軽に挨拶を返して下さっている。		
☐	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭には隣近所の方や自治会の方にお声掛けさせていただいてご参加いただき、利用者とともに楽しんでもいただいている。また、地域の方を対象として介護の勉強会や福祉用具の展示会を行いご参加いただいている。近所の神社との関係も出来て来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方を対象に地域包括支援センターさんの協力をいただき、高齢者の生活の注意点について勉強会を開催したり、福祉用具の展示を行ったり、認知症研修(オレンジリング研修)を行ったりする中で出席者との話し合いの場を設けて困っていることや、心配な点について相談しあったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において貴重なご意見や地域の情報をいただいたりしている。特に家族の代表のご意見を聞かせていただいたりと家族の思いが切実に伝わってくる。また、公民館や作品展示についてや外出への取り組みなどについても意見があり、参考に活かしていきたいと思っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大田原市介護サービス事業所連絡協議会開催への出席に努めている。日頃よりサービスに関する質問に丁寧にご指導いただいたり、新しい情報があるとすぐに連絡いただけてきていることで、戸惑いなくサービスを提供させていただけていると思う。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	包括支援センターさんより地域の勉強会等でお話いただく機会があり、パンフレットをいただいたりしている。今のところ必要な方ではなく今後必要に応じて支援をしていきたいと思う。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居中のご利用者様の状態について職員間でよく情報の交換に努めて、虐待等がないよう注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合は、施設長・管理者・介護支援専門員から具体的に説明し、その都度、疑問や不安な点についてお答えしている。十分な理解・納得をしていただき契約いただいている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様は職員との話せる関係が出来ていて、思っていることや感じている不満等があるとすぐに話をしてくれている。それに対して職員は誠意ある対応に努めている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要に応じて日常的な必要な物品や健康状態の変化がある場合は介護支援専門員が中心となり、連絡を行っている。また、定期的な報告としては、1ヶ月に1回最新の写真入りで、個々の方の様子をお知らせするスタッフからのコメント付きでお手紙をご家族様に差し上げている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を設けて、ご家族様等からの苦情・不満をいただくことができるようになってきている。ご意見等をいただいた場合は、その改善に向けて管理者・介護支援専門員・職員が話し合いを重ねて改善しようとしている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの機会に出来るだけ職員の意見を聴くよう心がけている。また、日頃より、出来るだけ職員ひとりひとりと話す機会を多くすることで、いろいろな意見が出し易い環境と雰囲気を作り、その実現に向けて話し合い実行しようと考えている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現場の職員の異動や離職は今までない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の方が一緒に行う研修を実施して、地域の方の意見きく機会への参加してもらったりしている。また、自主的に勉強したり資格を取ろうとする方には、出来る限り勤務の調整をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの先輩事業所さんとの連携を図りながら、開設の準備・その後の運営について解らない点など情報をいただいたりしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフとのコミュニケーションを取るよう努めると共にシフトの組み換え等を行うことで少しでもゆとりが持てる工夫に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来るだけ研修には出席してほしいと考えている。認知症実践者研修など順次参加できるように勧めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来るだけ相談しやすい雰囲気を作るように明るい笑顔を心がけている。時間を見つけて各自の席の近くに行き、一人一人に声かけするよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約に至るまでの過程を大切に、出来るだけ詳しく実際の状況や提供出来るサービスの範囲をお話しておく。状況を理解された上でご利用いただけるようにすることが、信頼関係を構築するのに重要と考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様等がどんなニーズを求めているのかよく見極めた上で対応するよう心がけている。常に広い知識と情報の把握により総合的に良い方向の探求に努めている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームとしてご本人様の入居への不安が強い方には、ご家族様のご協力をいただき、ご自宅への外泊を取り入れながら徐々に慣れていただくよう努めたり、食事の提供から始めさせていただいたりという取り組みから慣れていただいたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様に対するスタッフの対応には、常にここに来てよかったと思っていただけるように家族に代わってもう一つのファミリーになろうとしている。体調が悪そうにしていると、ご利用者が労わってくれたりという関係が出来ている。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様のご様子を定期的にお知らせしたり、健康状態や薬の管理についてなどまめに連絡取れさせていただいたりしている。納涼祭にはご家族様にもご案内させていただき、参加をお願いしたりしている。また、病院受診等は基本的にご家族様対応をお願いしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に写真入りでご様子をお知らせすることで、最新のご様子をわかって会いに来ていただけるように考えている。お支払等についてもこちらに来ていただき、会っていただこうにしている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ近所の方やご利用者様のお知り合いの方には会いに来ていただきと考えている。散歩には近所のご利用者様馴染みのお寺に出かけたりしている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士の関係はお部屋を訪ねてお話ししたり食堂でよく話していたりと仲良く穏やかに過ごす姿が見受けられるが、中には難しい場合もあり、テーブルの席替えをすることで和やかな雰囲気と思いやれる環境を作る様努めたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がどのような暮らしぶりや生き方をしてきたか全人的に把握するように努めている。そして、常にご利用者の目線に合わせて、その人らしい生活が日々送れるようにサービスの質の向上と本人の満足度を観察するようにしている。ご利用者様との話をよく聞き、話し合うことも行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約に至るまでに多くの状況の把握に努め、時には時間をかけながら情報を収集させていただくようにしている。出来るだけ馴染みの調度品・日用品をお持ちいただき、これまでの環境に近い状況の中でその人らしく生活していただけるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの生活・家族関係を把握するとともに大切に継続できるようあらゆる知恵を出し合う。また、地域の情報の入手も大変有用に考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初にご本人様の意向、ご家族様等の思いを尊重しつつ、これまでの生活の核になる大切な部分を保ちながらプランを作れるよう進めている。現場のスタッフの取り組みを助言しつつ、その人らしい介護計画作りに努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいてケアされるので、初期の頃は特に観察し、ニーズが満たされているかモニタリングしながら進めることが大切と思っている。対応できない部分があれば見直しをタイムリーに行い、満足のいくプラン作りに心を向けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、ご利用者様の状況把握に努めている。また、状況の変化について観察・対処方法などを職員間の申し送りにより共通対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所の置かれている介護保険上の位置づけを正しく認識した上で、どのようなサービスが提供できるのか、ご本人様・ご家族様等の要望に答えられるよう柔軟なサービスを提供するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	語り部のボランティアや舞踊・生け花のボランティアさんに来ていただいたりしている。また、民生委員さんが時々様子を見に来てくださったりもする。近くのほほえみセンターさんとの連携も深めていきたいと考えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには困難事例をはじめ、プラン作りのアドバイス等良く相談にのって頂いている。権利擁護などについても相談し知識を深めているところである。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員かかりつけ医をもって、受診している状況である。健康に安心して暮らせることが何より大切なので医療への依存度は大きいし、重要視している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域でも信頼されている認知症専門医のいる医療機関への受診を勧め、良い診断・治療を受けている。医師とも連携を取りながら信頼関係を築いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、医療機関へは必要に応じて面会に出かけ、ご家族様の相談にのったり、皆が帰ってくることを待っていることを伝え、安心して療養生活を送れるようにしている。また、病院スタッフとも相談しながら適切な時期に退院に向けて、受け入れられるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に当たっての契約時に当事業所にてサービス提供の範囲をお話しさせていただいている。重度化・終末期の場合にはどのような対応するかについてもご家族様のご理解をいただくようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所のサービス提供範囲を明らかに提示し、出来るだけ良い方向で対応できるよう努めることもお知らせしている。また、医療機関との連携の重要性を日々認識しつつ今後のことを考えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	おひとりおひとりのプライドやプライバシーを大切にしたいと考えている。声掛けもその人の自尊心を損なうことがないようにしながらも対応している。排便確認時は周りに人がいないことを確かめて行うようにしている。また、記録を取る時は、他利用者様の名前はイニシャルで記入するなど気をつけている。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様とのコミュニケーションに努めて、ご本人様の意思を伝えていただいたり、自分で考えて行動しようとしていることの実現の支援に努めている。十分な話し合いを行うことで納得いただけるようにも務めている。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本位の支援に努めて、おひとりおひとりが自分らしく大切に生活していただきたいと願っている。時には感情的な対応されるご利用者様の心理を理解することでご利用者様が安心して生活いただけるよう努めていきたいと思う。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容はご利用者様のご希望に出来るだけ添っていきよう努めている。ただ、可能な方にはご家族様との大切な共有時間としてお願いするようにしている。	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は三食とも職員がメニューを考えて調理している。栄養のバランスはもちろんであるが、時にはご利用者様のお好きなものをメニューに組み込むよう考えている。可能な方には食事の準備や後片付け・下膳等を行って頂いている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表からその人の排泄パターンなどを把握するようにしている。そのパターンを基に声掛けし、トイレ誘導を行っている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人様の外出予定や病院受診などに合わせて入浴いただいたりすることもある。夜入浴を希望された方もいたが、夜勤帯での入浴は勤務体制の問題で無理と判断し、日中の入浴をお願いしたことがある。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	足が冷たくて眠れないとの訴えがある方には、湯たんぽを使用したり居室の温度を一定に保つなどの取り組みをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お庭の手入れをしてくださる方やゴミを出す日には必ず早朝よりゴミ出ししてくださる方や来客があるとすぐに自慢のノドを披露してもてなして下さる方や習字がお好きな方などいろいろな役割を担って下さっている。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ることであれば、ご本人のお小遣いをもって一緒に買い物に出かけたりしたいが、実現されていない。散歩に近くのスーパーに行き、みんなで食べるおやつを選んでもらって買ったりはしたが、ひとりひとりが自分のお金で自由に買い物できるようになってほしいと考えている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気によっては、中庭で洗濯を干したり、草取りをしたり、お茶をいただいたりすることもある。1ヶ月1回のペースで外出の日を設けて近所の散策などを行っている。季節の風物である花市に希望のある方は出かけたりもしている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣に出かけたり、花市に行ったりなど地域の季節の行事などに接する機会を持つように考えている。月1回ドライブの計画等もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ自由に過ごしていただけるよう考えているが、グループホームが2階にあるという建物の構造上の問題で、2階の出入口からすぐに幅広い階段があり、転落防止の意味合いから階段入口に鍵を掛けさせていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りをしている。夜間帯では、常夜灯等をつけることで足元が危なくないようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理の必要な薬品や消毒薬等は鍵の掛かる物入れで対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送り等でスタッフ同士気づいた点や気になる点等を話し、事故を未然に防ぐことが出来るように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、ミーティング時に確認したりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行い、消防署職員の方のご指導をいただき、消火器の使い方や避難時の注意点や避難の方法についてお話しいたしたりしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時にも簡単な考えられるリスクについて触れさせていただくが状況の変化に応じて出来るだけ早い時期にご家族様との話し合いを行い対応させていただくよう心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや顔色やご様子の変化に敏感に反応し自己判断せずに看護師に連絡・相談し、早期対応に努めている。また、バイタルの管理やご家族様への連絡や必要に応じて病院受診をお願いするようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での何度か話し合いを重ねて薬の管理体制は強化している。薬を分けるときはダブルチェックを基本としている。また、個人の経過記録に薬の処方箋をファイリングしておき、いつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食物を摂取して頂いたり、牛乳を飲料して頂いたり工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施して頂いている。歯のない方にはイソジンでうがいをしていただき、入れ歯の方には入れ歯を外して汚れを落として頂いたりしている。入れ歯の不具合な方には入れ歯安定剤をご利用いただいたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量を表に記入し、状態の把握に努めている。また、水分量の少ない方にはその方の好きな飲み物をお出しするようにして出来るだけ不足しないように取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが配布されていてそれを確認し、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台布きんなどは毎回消毒し、調理の際には手洗い後ビスコールにて消毒している。また、食材購入日の記入、冷蔵庫の清掃を行うことで衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関外部にはスロープがあり、車いすの方も安心である。玄関には季節を感じられる生け花や飾りが職員の気遣いで置かれている。玄関が御影石のため玄関一面にマットを敷いて対応している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアーの壁に季節の絵を飾ったり、折り紙を折って飾ったりご利用者様にも参加して頂き、季節を感じて頂いたりしている。また季節の花を持ち寄ってテーブルや食堂に飾ったりもしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様にはそれぞれ自分の場所があり、そこに座ってよくお話をされている。外を眺めることがお好きな方は窓際の椅子に座って庭の様子を観察されたりする姿も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご利用者様の慣れ親しんだ筆筒や寝具類をお持ちくださるようお願いしている。ご本人様・ご家族様ご相談いただき、配置などご本人様が使い易く・安心できるようお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時に定期的な換気を行っている。また、温度調整は、ご利用者様に聞きながらスタッフが調整させて頂いている。乾燥を防ぐため加湿器を利用している。また、時々、お香を焚いてリラックスやリフレッシュ効果を期待している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフラットになっていて、居室・トイレの戸の開口は十分広く取られている。トイレも十分な広さが確保されている。ただ、床が固いのが心配な点である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を利用してティータイムを楽しんだり、庭にキュウリやトマトを栽培したりしたこともある。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
		○	利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		○	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム ピオニー

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎食手作りで、温かい食事を提供させて頂いている。